



ドルウェーブ
パイズリ合同
DolwavePaizuri

ズ
カ
ム
コ
ム
エ
ン
ト
部
心

パイズリ
PAIZURI
ONLY
オンリー

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

DATTAH



目次(参加者一覧)

(敬称略)

P.05 松本みみがあ (山葉由芽)

P.07 NANANANA (咲宮入華)

P.10 藤宮やひろ (咲宮入華)

P.11 揉寺 (都条みちる)

P.12 らぎりこ (彩戸詩絵)

P.13 さやま (永雪氷織)

P.14 ぽっしゅ (風見エレン)

P.15 みかさやき (伊澄桐利)

P.16 ふとし (暮無夕離)

(ヘリー・ルイズ) (住乃絵紫苑)

P.20 さんごう (ヴィーナ/綺羅星神奈)

P.22 稲庭しゅる (山葉由芽)

P.26 元乙侍 (永雪氷織)

P.30 あとがき

P.32 奥付

表紙 ふとし

※この合同ではドルサインがまるでバストサイズを詐称しているかのような胸・描写がございます。ご理解とご了承くださいませ。

ズリファンウェー部♥

描いた人
松本みみがあ
ドギッ♡

コーチさん
私のおっぱい
どうでしょうかい？

と
ドギッ♡

たろ♡
ん♡

むち♡

みち♡

おちんちんとっても
硬くなっていますね♡

ぬち♡
ん♡

ちち♡

わっ♡!!

みち♡

びゅく♡
びゅく♡

びゅ

る♡

ちち♡



あはっ♡

コーチ！
今日も練習に
つきあっていただき
ありがとうございます！

よし、今日もよく
がんばったな
練習後のプロテインを
用意しているから
飲むといい

コ

たぶん♡

たぶん♡

たぶん♡

わあい♡
プロテイン♡
入華、
プロテイン大好き♡

おん♡

NANANANA

↑
コーチ様

い
ま





コーチ!
「はいずりトレーニング」の成果
しっかり出てるでしょうか!?

……あ♡
昨日よりもせーしが早く
飛び出してきました!♡
これはどんどんはいずりが上手になっ
てことですよね?♡

たばん♡

たばん♡

ビュン
ンンン♡

たばん♡

たばん♡

たばん♡

さあ! まだまだ
連続でトレーニングです!
私 もっともっとなんげ張りますよ!♡

たばん♡

ひゃあ！これ何ですかコーチ！？

くっく

た。ぽ。ぽ。

た。ぽ。ぽ。

狼狽えるな！
ただのクール汁だ！

☐

ひゅるん

た。ぽ。ぽ。

た。ぽ。ぽ。

KIRISHIN

描いた人 揉寺

描いた人 ▶ さやま



謝罪するとは言ったけど
なんで私が庶民にこんなことしなくちゃいけないのよ！
確かにこのことをメイドやお父様にチクられると困るけど…
お金払ったんだからそれで解決で良いじゃない！

え？お金の問題じゃない？
誠意が足りない？

まったく！私がここまですることなんて無いんだからね！
こんなこと二度としないんだからありがたく思いなさい！

ずいっ

ずりっ

びゅっ

決まったー!!伊澄選手
パイズリバトル個人種目・
童貞オタク早抜き杯を
見事に制しました!!

にっしっし♪
童貞オタクくんとか
片手でよゆうだし☆

813.名無しの童貞オタク
まーたイキリーこがイキってら
イキそうなのはこっちなんだが

814.名無しの童貞オタク
は?負けんが?

815.名無しの童貞オタク
まずそのバスト詐称を謝れ
80ってレベルじゃねえぞ

816.名無しの童貞オタク
とりあえず今度のファン交流会
チケット取ったわ

817.名無しの童貞オタク
>>816
裏山

ちょっとだけ炎上した

みかさやき

お、おい…

あ

パイズリだけで
何回^な乳^か内^だ射^し精
すんだよお…♡

あ

あ

あ

あたしの臭いで染み…
あんたの臭い…
つちまうだろお…
せ、責任とれよなあ…♡

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ



んもう！

なによあ^せの娘^ナつたら
ワタシをバカに
しちゃつてつ！

ほら見なさい！
ワタシの方が
こんなにおっ
大きいんだから
ぱい

パイズリだつて
姉のワタシの方
絶対気持ちよく
あげられるのよ！
そうでしよつ！？

：つて事がね！
昨日あつたのよ！
(※かなちゃんイベ参照)

ぎゃ〜

めいっ

みぢっ

みぢっ

みぢっ

みぢっ

みぢっ

みぢっ

みぢっ



描いた人：さんごう

まさかKAZAMIの
プライベイトビーチに
居るなんて！

フフ
ホント
探したわあ

でも
貸し切りに
したのには
大正解ね！

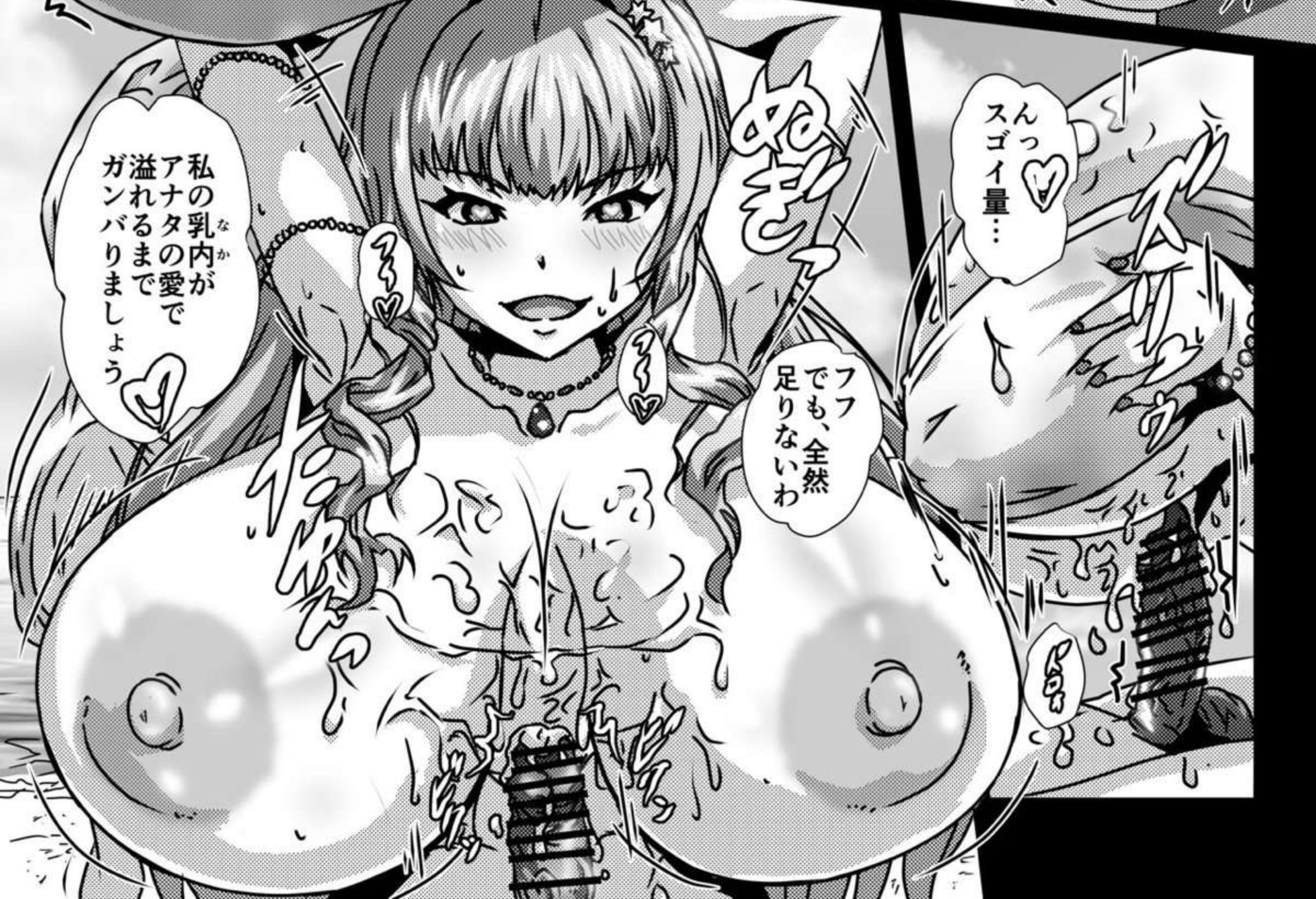
さあ、今日も私の
実測10cm越えの
Lカップおっぱいに
たくさんの愛を
おねがいね♡





ああんっ
キタあんっ

さあっ
なか
乳内
だに
射精
して!



私の乳内
が溢るま
でアタマ
がガンバ
りましょ
う

ぬも

フフ
でも、全
然足り
ないわ

スゴ
い量…

おっぱい逆サバNカップ由芽さんに

デカブラパイズリさせてもらう話

作・稲庭しゅゑ

「……え、えっと……♡ コーチさん

……♡」

ベッドの上に押し倒されているというのに、由芽さんの瞳は熱を帯びたまま、僕をじっと見上げてくる。自分がこれから何をされるのか期待している、そんな視線が、捉えたまま離さない。

……本当に、由芽さんはズルい。

「由芽さん……っ……♡ 由芽さんが悪いんですよ……♡ こんな無防備に……♡ 誘惑するから……♡」

呼吸に合わせて上下する、黒いブラジャーに包まれたバスト。それを思いつきり、驚掴みにする。

「でっか……♡」

メロンが丸ごと入りそうなサイズの大きなカップと、その下で柔らかく形を変える乳房の感触……。

分かりきっていても、感嘆が漏れてしま

う。火照りきった体温と一緒に掌いっばいに伝わると、興奮が抑えられない。

「んう……っ……♡ いきなり……♡ そんな……♡ 激しく……♡」

「由芽さんが……♡ たまには好きにしたい……♡ お酒のせいにしていい……♡ つて言ったんじゃないですか……♡」

「……それは、そうですね……♡」

今日も一人で酔い潰れた由芽さんが僕の部屋で目を覚ましたのは、ほんの十分ほど前のこと。……たまにはお礼がしたい、という由芽さんの囁きに、僕は抗えなかった。

「……今日はコーチさんもやりたいことやっていいですよ……♡ 我慢しないで……♡ ぜんぶ、お酒のせいにしちゃいましょう……♡」

由芽さんはまだ酔いの残る身体で、無防備にその豊満な身体をアピールすると、僕の中の雄を無自覚に誘惑して……。

——そして気づけば、彼女をベッドの上で組み敷いていた。

「きゃう……♡ んう……♡」

爆乳を揉みしだくたび、由芽さんが艶めかしい声を上げて身体を揺する。

そして、おっぱいの重量が掌いっばいに伝わってくる。想像以上の質量に、指先が震えるのが分かる。初めて感じる乳重のポリウムに、雄の本能をたっぷりと刺激されてしまっているのを自覚して。

……けれど、手を止めることはできない。ずっと触ってみたかった。好きだけ揉んでみたかった。胸元の艶めかしいほくろで視線を誘って、常にたゆたゆと重たげに揺れる、この大きな爆乳を……。

「ほんとデカいですね……♡ これ……何cmくらいあるんですか？」

「……ひゃ。112……♡ あっ、えっと……♡ 96っ♡ 96cmです……♡」

「由芽さん……？ いま誤魔化しました？」

問い質しながら更に激しく揉みしだくと、柔らかな乳房が指の隙間に沈んでいく。そうすると、由芽さんの高鳴った鼓動がはつきりと感じられて……。

「あう……♡ はい……♡ ほんとのこと
言う……♡ 112cmの……♡ Nカッ
プです……♡」

ただでさえ酔いの残る頬を耳まで真っ赤
にして、由芽さんのカミングアウトが始ま
って行く。たった今告げられた情報だけで
も、のぼせそうなくらいの興奮で勃起して
しまっているのに……。

「昔登録したプロフィールから更新するの、
めんどくさくて……♡ そのままにしちゃ
ってるんです……♡ 私テストライダーで
すし、ほとんど気にする人いませんから
……♡ それに、あんまり大きすぎると引
かれちゃうんですよね……。大きいほうが
好き、って人でも限度があるみたいで
……♡」

由芽さんは、どこか不安そうに眉を下げ
る。すっかり興奮しきった頭では、そんな
仕草さえ愛おしく感じられてしまつて……。

「コーチさんは……♡ こういう胸♡ 好
きですか……♡」

「正直言う……、大好きです……」
「ありがとうございます……♡ でも、ご

内密にしてくださいね……♡ みんなにバ
レルのは、恥ずかしいので……♡」

自分だけが、由芽さんの本当のバストサ
イズを知っている。そんな事実、雄の征
服欲が疼いてしまう。

「コーチさんがおっぱい大好きなのは……
♡ たくさん伝わりました……♡ だから
……♡ 秘密にする代わりに……♡ 好き
なだけ触っていいですよ……♡ 私のおっ
ぱい……♡ 好きだって言ってもらえるの、
嬉しいので……♡」

「なら本当に……♡ 好きなだけやります
よ……♡」

「……こんな身体で、良ければ……♡」

由芽さんを組み敷いたまま、興奮で息が荒
くなるのが自分でも分かる。ズボンを下ろ
す手つきが、震えてしまうくらいなのだか
ら。

「は……う……♡ コーチさんの……♡
すごい……♡」

むっちりとした身体に馬乗りになって剥
き出しのペニスを突き付けると、由芽さん

が ごくっ……♡ と生唾を飲むのが見え
た。

「……うわあ……すごい……♡ 先っば
から……♡ 涎みたいなのが垂れて……♡
これ……我慢汁ですよ……♡ ほんとに
出るんだ……♡ コーチさん、そんなに興
奮しちゃったんですか……♡」

「……っ……!!」

その問いに答える代わりに、ポリューム
たっぷりの下乳にびったりと龟头を宛がう。

「んう……♡ 硬い……♡」

ブラの隙間からはしつとりと汗ばんだ谷
間の入り口が覗いて、ペニスを受け入れよ
うとしてくる。

「このまま由芽さんのおっぱいで……♡
パイズリ♡ させてもらいます……♡」

脇のラインからはみ出して、呼吸に合わ
せて上下する豊満なバスト。片方で彼女自
身の頭より大きな、112cm Nカップの爆
乳。巨大なマシユマロのようなそれを鷲掴
みにしてペニスをねじ入れると、由芽さん

の身体がぞくつ♡と悶えた。

「……谷間……深っ……♡」

挿入した瞬間、あまりの深さに竿が飲まれそうになる。根本から先端まで、ぜんぶ柔らかな乳肉で挟み込まれてしまっ、出口が見えない。

「おっぱいの中で……♡ コーチさんのおちんちん……♡ どくどく脈打ってます……♡ とつても熱い……♡ 私の胸でよければ……♡ 好きなだけ使ってください……♡ 気持ちよく……♡ なってください……♡」

そんな言葉にたっぷりと嗜虐心を煽られたまま、僕は抽送を始めていく……。

ペニスを滑らせるたび、巨大なブラジャーの中にみっちり詰まった乳肉が、にゆるにゆると竿を抜きあげてくる。谷間そのものが、柔らかく重たい極上の乳圧で子種をねだるようにして……。

「はう……♡ んう……♡ ……どうですかコーチさん……♡ パイズリ……♡ 気

持ちいいですか……♡」

由芽さんの口から「パイズリ」という言葉が出るだけで、ペニスの脈動がより強まるのが分かる。

「気持ちいいに……♡ 決まってるじゃないですか……♡」

右胸の付け根、谷間の出口でちらちらと誘う乳ほくろに、亀頭でべつとりとキスを交わす。

柔肉にぐりぐりと先端を押し付けて、重たい乳肉をペニスで歪めて。そのまま腰を引けば、長い谷間、びったりと絡む乳肌に、竿を丸ごと舐られて。

谷間の中で何度も何度もパイズリの快楽を味わって、どんどん病みつきになる。

「んっ……♡ んう……♡ コーチさん……♡ 激しい……♡」

その度に、由芽さんが甘い吐息を漏らすから、より興奮を煽られ、どんどん抽送が激しくなってしまう。ベッドの上では。ゆさゆさと乳肉が揺れ、たばん♡ たばん♡ とお互いの身体がぶつかる音だけが響く。

……ほとんど、獣の交尾と変わらない。

「由芽さんっ♡ 由芽さんっ……♡」

……気づけば、彼女の名前を必死に呼んでいた。

上ずりきった声で呼びかけて、谷間をずぶずぶと犯すたび、爆乳への征服欲が満ちていく。

そんな気さえしてしまっ、盛った犬のような腰遣いを抑えることが出来なかった。

「……由芽♡ 由芽っ……♡ ゆめ……♡」

亀頭も竿もおっぱいの中で蕩けてしまっ、そうな、それほどに深い快感が奔ると、股間の奥底から込み上げてくる恍惚感を止められない。

「……っぐ……♡ 出る……っ……♡♡♡」

痺れるようなオーガズムがペニスから身体全体に広がって、どくどくと精液を吐き出していく。
ぶびゅっ♡ ぶびゅっ♡ と音が聞こえるほどの、激しい射精。

それを、由芽さんの爆乳が受け止めて。

「……はふっ……♡ ……ふっ……♡ ふ
う……♡」

「……乳内射精……♡ 中出し……♡ し
ちやいましたね……♡」

絶頂の余韻に浸って脱力すると、由芽さ
んのバストを抑えていた手が離れてしまう。
深く肉厚な谷間が重力に負けて広がると、
精液の粘っこい橋が架かっているのが見え
て。

どれだけこの爆乳が気持ちよかったのか
を、分からせてくる。

普段は胸元からちらちらと覗いて僕を誘
う谷間のほくろも、白濁の下に埋もれて完
全に見えなくなってしまうていた。

「……すいません……♡ 我慢できなくて
……♡」

「男の人って……♡ 本当にパイズリが大
好きなんですね……♡ こんなにいっぱい
出るんだあ……♡」

べとべとになった谷間ですら抑えきれない
ほどに噴き出した飛沫は、由芽さんの顎か
ら額までべったりと真っ白な筋を作ってし

まっていた。

正直自分でも引いてしまうくらいの、激
しい射精。

太い眉毛に、精液の粘っこい雫が絡んでい
るのが分かる。

「はあ……♡ はあ……♡ すっごい匂い
♡ とっても雄臭い……♡ コーチさんも
結構溜まってたんですか……？」

顔を精液まみれにしたまま、彼女はうっ
とりと微笑む。うなずくことしかできない
僕の中の欲求を、見透かすようにして。

そんな由芽さんの顔を汚しきるようにし
て、口元のほくろに つう……♡ と白い
雫が垂れていく。

そんな濁りを、濡れた舌が舐めとった。
「んちゅ……♡ ……♡ んう……♡ 精子
……♡」

「……♡ こんな味なんです……♡」
「……♡ ご、ごめんなさい、すぐ拭くので……
……♡」

まだ芯の残る竿が にゆる……♡ と
谷間から抜けると、ブラの隙間からぼたぼ
たと精液の残滓が由芽さんのお腹に零れて。
身体が離れる最後の最後まで、繋がろう

とする。

「大丈夫です♡ このままもう少し……♡
♡ コーチさんを感じさせてください……♡」

離れようとする僕の腕を、しつとりと汗
ばんだ由芽さんの手が握る。

「パイズリしてる時のコーチさん……♡
♡ 気持ちよさそうで……♡ とっても素敵だ
ったなあ……♡ 私も初めてでしたけど……
♡ ……♡ パイズリ……♡ とっても良かった
です♡ ハマっちゃいそうです♡」

余韻に浸る彼女の豊満なバストは、呼吸
に合わせてたゆたゆと柔らかく揺れ続ける。
……♡ きつとこれからも、この誘惑には勝
てないと思う。

「また時間作って……♡ 今度は、コスプ
レしながらやりましょうよ……♡ 推しに
パイズリしてもらおうんです……♡ 最高だ
と思いませんか……♡」

こうしてまた一つ、由芽さんとの秘密が
増えてしまった――。

(おわり)

永雪氷織の絶対的パイズリ挾射

作・ヨ乙侍

冷たい水色の髪、氷のように澄んだ白い肌、凍えるような威圧を与える赤い瞳。

カリカリと股間を弄り、反応をひとつずつ探りながら、氷織の手がズボンをずり下ろしていく。今にも突き破れそうなパンツも下ろすと、すっかり滾ったペニス勢いよく姿を現した。

「ズボン越しでも伝わる硬さに熱さ……

氷の絶対女王」の名をほしのままに

「そこで考えました。貴方ひとりでの制

水着姿の私と二人きりというだけで、余

する彼女が、『ワダツミングレス』で知

御が難しいのであれば、調教すれば

りある劣情を催す。非常にしつけがいが
ありますね」

った人目につかないビーチスポットの岩
陰で、いやらしく男の股間をまさぐって
いるとは誰にも想像つかないだろう。

私に集中させ、徹底的に射精させた後に
焦らして管理する……不思議と高揚を覚

苦しげに張った肉棒のテントを、氷織
のしなやかな指にしゅりしゅりと撫で回
される。

「遠慮は無用です。この勝負は貴方の本
能を私が制御できるか否か。思うに普段
あれほど理性的な貴方が、見境なく女体
をまさぐるほど本能に支配されるのは

えますね。やはり、よからぬ道に目覚め
てしまったのでしょうか」

発情し、理性のタガが外れたイチモツ
をじっくり堪能するような、繊細な手つ
き。

……オーバーワークによる過度の疲労、
あるいは性的欲求の発散不足にあるので
はないか、と」

以前、動物は本能的で制御が効かない
から、という理由で犬の飼育をためらっ
ていた彼女に、訓練次第で従順になると

凛とした表情を崩さないまま、じつと
コーチを見つめて、弱点を探るように反
応をうかがっている。

つう……と爪先で膨らみをなぞられ、
ビクンと身体を震わせるコーチ。

教えたコーチ。

結果として小型犬を飼うようになり、

氷織は先入観に囚われていた自分を改めるきっかけになったのだが……それ以降、

『人間相手にも訓練して制御する絶対的感覚を味わってみたい』という仄暗

い欲求を抱いているらしい。

「ふふっ、心配は無用です。この勝負、

溜まった性欲を全て吐き出すまで終わら

せるつもりはありませんが……その分、

思いきり可愛がってあげますから」

手に取った小瓶から、とろみのある液

体が氷織の谷間へとこぼれていく。

乳房の大きな女性が多いジェットバト

ル界限の中でも、彼女の爆乳はロケット

のように突き出ている。顔ほどの大きさ

がありながらツンと張っていて、重力に

も負けず服を押し上げるデカパイ。

加えて彼女のビキニは、謎の紐で下乳

をぎゅっと締められているため、まるで乳房の形に張り付くようにパンパンで、乳シ

ワができるほど横に伸びている。

「……無言で手を伸ばし、揉みしだくの

はどうかと。まあ、貴方なら良いですが

……」

指で押し込むほど跳ね返ってくる乳肉

の弾力、ビキニのこすれる音、無機質な

ようでやや頬を赤く染めている氷織。ク

ール然とした女性が見せるメスの表情

に、痛々しく膨らんだペニスと上

を向く。荒々しく爆乳を揉まれるほど、

谷間に垂らしたローションが攪拌され、

すっかり怒張を受け入れるためのズリ乳

と化していた。

「では、どうぞ。貴方を搾り尽くし、絶

対的な勝利を得るまで止まらないパイズ

リ……味わいたいのなら、このまま突き

入れてください」

仁王立ちしたコーチの前に跪き、ク

ルな上目遣いで爆乳を差し出す氷織。持

ち上げられ、だぶんと突き出たデカパイ

の谷間を、熱々の剛直がゆっくり掻き分

けていく。腰を突き入れても胸板に届か

ないほど深い乳間に咀嚼され、ペニスが

すっかり乳肉に埋もれてしまう。ビキニ

で程よく締まった乳圧と、みっちみちに

吸い付いて離さない乳肌の心地よさに、

たまらずうめき声が出る。

「んっ……谷間の中で跳ねていますね。

男性器が隠れて見えなくなるのが、そん

なに嬉しいのですか？……ふむ、おっぱ

いの長さを分からされるから、と。確かに人並より大きい自覚はありますが」

下乳から両手で支えるよう、にゅぷ、にゅぷ、と揺らして、ペニス全体を谷間でしごいていく。濡れた乳肌が肉幹を撫で上げ、動かすたびに卑猥な淫音が聞こえてくる。

「……大きさを偽っている、とは？ ああ、公表しているバストサイズのことですか。私自身、気に留めたこともありませんが」

両手でぐつと谷間を狭めながら、ぬぷつ、ぬぷつ……と筒のように出し入れして、ペニスを乳のはさまに呑み込んでいく。ぬるりと差し込むたび、ローションでほどよく滑る乳肌が優しく揉み込んで

きて、立っていられないほどの快感を与えてくる。

「もし、真実を知りたいのでしたら……今から谷間を往復する回数をよく覚えておくように。途中で出すことのないよう、踏ん張ってください。では、参ります」

氷織の両腕がコーチの腰に回され、ぎゅつと胸を押し付けられる。そのまま身体ごと上下に動かし、肉棒を挟んだままデカパイをこすり付けていく。

「視線を逸らしてはいけません。私と目を合わせたまま……ひとつの音も聞き漏らさないよう、集中と我慢を」
にゅこつ、にゅぷつ、ずにゅ……氷織の赤い瞳に映る、とろけたオスの表情。耳を犯すほどに粘っこい乳音が、しつこ

く情欲を煽り立ててくる。谷間の中は柔らかな道行きを変えながらも決して肉棒を逃がさず、お互いの熱ですっかり火照っている。

——ぱちゅん!!

強烈な乳圧が襲ってきた。

氷織が両手をいっぱい広げて、むぎ

ゅうと乳房を中心に寄せたのだ。

「……こう見えても結構恥ずかしいので、明言は避けますが。いま貴方の熱が私の胸を通った分だけ、バスト90に足してみてもどうでしょう……？」

考える間もなく、目の前をよく締まった乳オナホに苛立つチンポを突き入れていた。貪欲に乳穴を窄めてくる絶対女王の逆詐称デカパイ。特濃精液を注ぎ込

み、絶対に孕ませてやると必死に腰を打ち付けるコーチ。

しかし氷織は、突然の発情も予測していたかのように、乳房が突き出るほど両肘で圧迫すると、

「構いませんよ。乳房の大きさを独占する悦びを噛みしめながら……溜まった欲望を徹底的に吐き出してください」

どちゅ、ばちゅ、ぬぼっ、ずぶっ。

もう腰振りを止められない。

氷織の手首に重ねるようにロケット谷

間を圧迫し、無我夢中でチンポをねじ込んでいく。激しいパイズリセックスの末、力を込めたストロークで乳奥へと打ち付けると同時に——どびゆるるう……

……と、噴火のような勢いで乳内射精し

た。下乳からあふれた精液が滴り落ち

て、氷織の太ももを汚していく。乳汗や先走り汁でぬめった乳肌が白濁で上塗りされ、より淫靡な匂いとなって周囲に立ち込めていた。

「んっ……いっぱい出ていますね。私の誘導に従い、耐えるべきところは耐え、吐き出すときに吐き出せた。これもひとつの勝利といえるでしょう。ご褒美に……

……口づけをしながら交互に谷間をこするので、少し身をかがめてもらえますか……

……ちゅっ

唇をついばむように短いキスを繰り返しながら、べっとり精液の橋が架かった谷間をくちゅくちゅとこすり合わせ、射精後のペニスを愛撫する氷織。尿道に残った濁汁も乳圧で搾り出されると、

「これほど濃い精液を溜め込んでいたとは……いけませんね。やはり徹底的に射精させる必要があるでしょう。更なる効率も求め、体位も変えていくつもりです。次は……私の膝の上にお尻を乗せるか、四つん這いになって私に尻を向けるか。いずれにせよ、勝ち切るまで続行です」

一度の射精で収まらない欲情チンポを再び乳の海に沈める氷織。膝上、膝立ち、シックスナイン、果ては四つん這いでケツ舐めズリ。性欲を完全解消する絶対的勝利を得るまであらゆるパイズリを敢行し、日が暮れるまで淫らな乳交は続けられた。

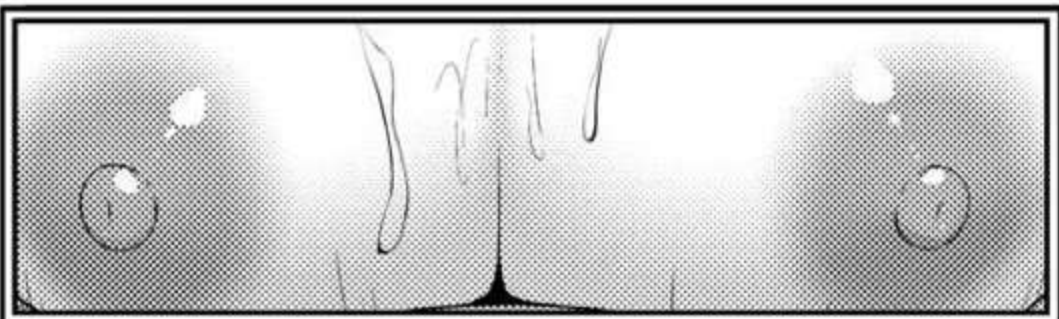
あとがき



◆ さやま P.13

氷織いいよね…
水着は引けませんでした…

<<https://twitter.com/sym4_cc>>



◆ にっしっし P.14

OPPAI!!!!!!!!!!!!!!

<<<https://twitter.com/244>>>

ドルウェアのパイズリ無限は
-INFINITY-
見たいのていっはい流行って

◆ みかさやき P.15

競技用の童貞オタクくんは厳正な審査基準を
クリアして選出されるらしいです。

<<<https://twitter.com/namafu3>>>



◆ さんごう P.20

参加させていただき感謝です。
楽しく描かせていただきました。
やはりパイズリこそ愛!

<<https://twitter.com/sangou_3>>

由芽さんパイズリ

◆ 稲庭しゅゑ P.22
(@in_aba99)

由芽さんのパイズリ書かせていただきました。
おっぱい逆サバドルフィン概念流行れ…!!

<<https://twitter.com/in_aba99>>

永雪氷織の絶対的
パイズリ挟射

◆ π乙侍 P.26

ビジュアルからして好みなのですが、「勝つまで挑めば負けではない」
の精神に通じるものを感じた侍です。
何度パイズリに負けても挑戦します。行くぞオラッ、おっ♡

<<<https://twitter.com/WTsLc8dJ8Ycrz6f>>>

おくづけ

■合同主催のふとしです。

C101の当落があった後からの企画・募集
だったにも関わらず、ご参加・執筆して頂いた
方々には本当に深く感謝を申し上げます。
ドルウェブがリリースしてからは毎日
やっています。ジオラマでたのしいです。
読んでみてまだプレイしてない方はぜひ
この機会に触ってみてほしいです！！
夏のC102にはもしかしたら合同第二弾を
するかもしれません。(水着で丁度良いですし)

デカパイ感謝！！

発行日 2022/12/31 (コミックマーケット101)
発行元 ふとし乳業
発行者 ふとし(主催)
Twitter @hutoshi_19
印刷 サングループ様



SUN GROUP

<http://www.sungroup.co.jp/>

※18歳未満の購入、閲覧を
固く禁じます。
※無断転載・WEB上での
アップロード等を固く禁じます。

ズリファンウェー部♥

松本みみがあ

NANANANA

藤宮やひろ

揉寺

らぎりこ

さやま

ふとし

にっしっし

みかさやき

さんごう

兀乙侍

稲庭しゅゑ

ドルウェア
パイズリ合同
DolwavePaizuri

ズリコファン
ウェー部

ふとし乳業
presented by ふとし